

# モンゴル 障害児のための教育改善プロジェクトフェーズ2 ニューズレター

## Topics

- 学習の遅れを取り戻すためのミニ・プロジェクトを実施します!
- 支部委員会での発達支援計画作成のポイント
- 幼稚園の園内環境を整備するポイント
- 個別教育計画作成のコツをつかもう
- 幼稚園や学校でできる取り組み-合理的配慮って何?-
- コラム-学校全体で取り組む多層的な支援システム-



ニューズレター第2号をご覧くださいありがとうございます!今回は、支部委員会メンバー、幼稚園や学校の先生方の日々の活動のヒントとなるような情報を中心に掲載しました。

## 学習の遅れを取り戻すためのミニ・プロジェクトを実施します!

### 採択団体一覧

テーマ	団体名
視覚障害児対象	平等な権利 平等な機会 NGO
聴覚障害児対象	視覚障害の教育 NGO
肢体不自由児対象	障害児のリハビリ発達センター
知的障害児対象	第73学校
就学前教育の訪問教育	モンゴルポーターズ協会
学齢期の子どもの訪問教育	ハンウール区生涯学習センター
補助教員(聴覚障害児対象)	第141学校
補助教員(視覚障害児対象)	手話通訳者協会
補助教員(その他の障害種対象)	人材開発調査研修センター

モンゴルでは、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、2020年1月末より多くの学校が閉鎖され、対面授業が行われなかった状況となりました。テレビやオンラインによる遠隔教育は実施されましたが、個のニーズに応じた教育ではなく、児童生徒の学習に深刻な遅れが生じていました。

そこで、プロジェクトでは、障害のある子どもたちへの学習支援のために、9つのテーマに沿ったミニ・プロジェクトを募集しました。昨年秋に公募を行い、左記のとおり9つの団体を選定しました。2022年5月末までを実施期間とし、現在各団体が活動を実施中です。

これらの活動の成果を、今後モンゴル全土へ普及させていくために、プロジェクトでは活動をモニタリングし、皆さんに役立つ情報を共有していきます。

## 支部委員会での発達支援計画作成のポイント

2021年6月政府令第173号「障害児の保健・教育・社会保障委員会の規則」には、9区21県に設置された障害児の保健・教育・社会保障支部委員会が、支援を必要とする障害児について事例検討会を開催し、発達支援計画を作成・実施することが示されています。皆さんが作成される発達支援計画は、対象となる子どもの障害やその子どもができないことのみ着目し、訓練やリハビリを通して「子どもを変えること」に焦点を当てた計画になっていないでしょうか。

プロジェクトでは、2021年11月に全国の支部委員会を対象とした研修を実施し、自閉症の対象児(4歳)の発達支援計画を作成する演習を行いました。

右にお示した発達支援計画では、対象児の就園を可能とするため、「子どもを変える」のではなく、環境調整を行ったり、教員、クラスメイト、その保護者に働きかけることが計画されています。このような「合理的配慮」(本ニューズレター4ページ参照)こそ、発達支援計画作成において重要な視点です。周囲へのアプローチや、環境を変えることで期待できる変化にも着目して計画策定を行いましょ。

1年後の目標に到達するための課題/ニーズ	支援目標	達成時期	支援の内容(頻度、時間)	担当機関/担当者
幼稚園の教員がAmarちゃんへの接し方が分からず疲弊しており、受け入れを嫌がる。	Amarちゃんが幼稚園で落ち着いて過ごせるよう環境調整を行うとともに、教員に接し方を学んでもらう。	2022年6月	- 子どもの発達の特徴を把握する。 - 教員に自閉症に関する理解を深めてもらい、研修を実施する。 ・ 指導法を教える。 ・ 自閉症に関する理解を深めてもらう。 - 絵カードを活用する。 - Amarちゃんの好きなものを把握し、準備する。 - Amarちゃんにイヤホンを準備し、必要な時に使わせる。 - 食事の好き嫌いを把握する。	-幼稚園の管理職 -教育局担当者 -教職員 -校内委員会
Amarちゃんが突然大声を出したり、ひっかいたり噛んだりするため、幼稚園のクラスメイトが怖がり嫌がりたり、クラスメイトの保護者から幼稚園に対してクレームが来る。	Amarちゃんが幼稚園で落ち着いて過ごせるように環境調整を行うとともに、クラスメイトやクラスメイトの保護者の理解を促す。	2022年6月	- 保護者の理解を深める。 - クラスメイトの理解をある程度深める。 - 子どもたちは大人の真似をするため、教員たちの態度を変える。 - 大声で騒いだり、ひっかいたり噛んだりする前に他のことに注目させる。(教員たちの専門知識を向上させ、観察や経験を積んでもらう)	-幼稚園の医師 -病院の医師 -幼稚園の管理職 -行政機関 -教員 -保護者の代表 -校内委員会

ザブハン県支部委員会が演習で作成した発達支援計画の一部

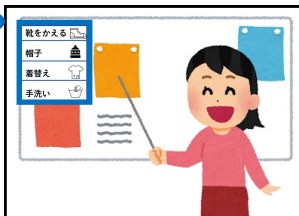
## 幼稚園の園内環境を整備するポイント

幼稚園での集団生活の場では、在籍している全ての子どもにとってわかりやすく、子どもたちが動きやすい環境を整備することが重要です。朝の身支度がなかなかできない子どもでも、教室に置いてある玩具を整理するだけで、気が散らずにやるべきことに集中できるようになることがあります。ここでは、どの子どもも安心して生活できるよう、園内環境をインクルーシブにする工夫・ポイントをご紹介します！

### 例1 教室での工夫

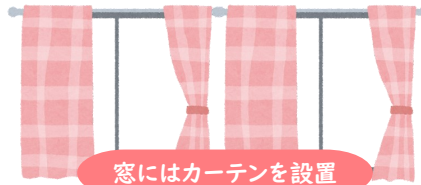
#### 1日の見通しがわかりやすく表示されている

朝の会、遊び、お昼ごはんといったスケジュールにあわせて子どもは場所を移動します。活動の順番を忘れても、スムーズに動けるよう、流れを示し、見えやすい場所へ貼っておくとよいでしょう。



#### コーナーを区切る

1人で自由に遊んだり、グループで製作をしたり、一斉活動をしたり、教室では様々な活動が行われます。活動・目的ごとのコーナーを作れば、子どもにとって、何をすることがわかりやすくなり、子ども同士がぶつかる事故も防げます。移動可能なマットを置いたり、棚を利用したりし、スペースの形を変化させ、「自由遊びコーナー」「製作コーナー」「おままごコーナー」などと分けましょう。

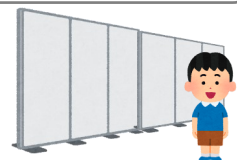


#### 窓にはカーテンを設置

窓にはカーテンをつけておき、一斉活動や集まりの時、子どもが集中できるように開け閉めしましょう。教員が話す定位置の後ろには、物を置かないか隠すようにして、子どもが教員に集中できるようにします。

#### 1人になれるスペースがある

部屋の隅、家具、パーテーションなどを利用して、周りの音や視覚から入ってくる情報に過敏な子どもが1人でほっとできる場所を確保しましょう。1人で絵本を読むことに適していそうな、視覚・聴覚の刺激を遮ることのできるスペースがよいでしょう。



#### 子どもが理解しやすい順番になっている

靴棚、道具棚、ロッカーやカバンかけなどは、名前順ではなく、子どもの身長や車いすの子ども、視覚障害のある子どもが見つけやすい場所かどうか、などを考慮して決めましょう。



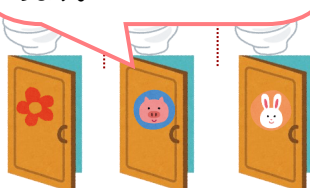
### 例2 トイレでの工夫

子どもがトイレットペーパーで遊ぶのを防ぐため、使用する紙の適切な長さを壁に提示しておくとうちがかりやすくなります。



ドアには花や動物のイラストをつけ、入りやすく暖かい雰囲気をもたせ、どの個室に入るのかを子どもに伝える時にも役立ちます。

待つ場所をわかりやすくするため、床に足跡を描いておきましょう。



### 例3 視覚的な情報の活用

手洗いや身支度などの流れは、やり方を覚えていなくても、絵で示してあるとスムーズに動けます。



靴をかえる		てをあらおう！		
帽子		1	2	3
着替え		4	5	6
手洗い		ゆびのあいだ	おやゆび	てくび

登園後の身支度の順番。文章と絵・写真で示すとわかりやすくなります。

手洗いの順番。洗面台に貼って子どもが見ながら手を洗えるようにするといいですね。

## 個別教育計画作成のコツをつかもう

このニューズレターを読んでくださっている皆さんの中には、個別教育計画を作成している教員もたくさんいらっしゃると思います。実態把握をどうやったらいいかわからない、長期目標はどうやって立てる？など、個別教育計画を作るときに困ったり悩んだことはありませんか？2018年5月に出された教育大臣令A/155には、作成ガイドラインも添付されています。今回は、そのガイドラインを基に、個別教育計画作成のコツをご紹介しますと思います。

### コツその1 実態把握は的確にしよう&できていることも書くようにしよう！

実態把握の際は、子どもを観察することはもちろんのこと、保護者や以前担当していた教員・幼稚園からの情報収集がとても重要になります。これらを行わずに、実態把握の部分を教員が適当に書いてしまうと、その子どもに適した目標設定や支援方法の検討ができなくなってしまいます。個別教育計画のフォーマットでは、実態把握を「身辺自立」「言語・認知・数」「社会性」「運動」の4つの領域に分けて記載するようになっています。障害の重い子どもの場合は、特別学校や障害児発達リハビリセンターに依頼して、専門家の意見をもらうことも有益です。

プロジェクトで作成した「障害の重い子どものための指導法ハンドブック」も実態把握の参考になります。知的な遅れがあまりない場合は、「学習の遅れや行動に課題のある子どものための支援ハンドブック」も参考にしてみてください。これらの資料は、右のQRコードからダウンロード可能です。

また、実態把握の部分には、「一人でトイレに行けない」「35文字を読めない」など、子どもができないことを書きがちです。「トイレで自分でズボンを上げ下げできる」「友達と一緒に歌うことが好き」など、今できていることや好きなこと、興味があることも書くようにしましょう。そうすることで、実態把握の後に立てる長期目標や短期目標を設定しやすくなりますし、指導の工夫も検討しやすくなります。



### コツその2 実態からかけ離れた長期目標はNG!

長期目標は、作成した時期から1年間で達成可能と考えられる目標にします。目標はその子どもにとって適しているかどうか、学級目標からずれていないか、確認しましょう。障害が重く、学級の他の子どもたちと同じペースで学習することが難しい場合は、授業の中で取り組めそうな課題をあらかじめ考え、達成できそうな目標を考えます。例えば、まだ1や2の意味を理解していない子どもが、1年後に「10までの足し算と引き算ができるようになる」のは現実的ではありません。学習の順番とその子どもの実態に沿って目標をたてましょう。

### コツその3 長期目標は評価しやすい書き方をしよう!

長期目標が達成できたかどうかを学年末に評価する必要があります。よって、長期目標は評価しやすい書き方をすることがポイントです。例えば、「35文字がわかるようになる」という長期目標があったとしましょう。学年末に評価する際、どこまでできていれば「わかるようになった」のかが不明であるため、評価することが難しくなってしまいます。この長期目標を、「35文字のうち、25文字以上のブロック体の読み書きができるようになる」としたらどうでしょうか。評価もしやすいですし、授業の中での支援も検討しやすくなります。

### コツその4 短期目標は長期目標を達成するためのスモールステップ!

長期目標が立てられたら、次は短期目標です。学期ごとの短期目標を達成することで、学年末に長期目標を達成することができます。長期目標をスモールステップに分けて短期目標を設定するようにしましょう。

短期目標は、指導の場面ごとにわけて書くようになっています。長期目標を達成するための支援や指導をする場面（算数の時間、モンゴル語の時間、登下校時等）を決めたくえて、短期目標を書くようにしましょう。

短期目標を積み重ねることで、長期目標を達成!



長期目標: ブロック体を丁寧に書けるようになり、詰まらずに読めるようになる

3学期の目標: 幅の広い罫線からはみ出さないようにブロック体を書くことができる。長い一文の文章をゆっくり読めるようになる。

2学期の目標: 小さめのマス目からはみ出さないようにブロック体を書くことができる。短い一文の文章を読めるようになる。



1学期の目標: 大きめのマス目からはみ出さないようにブロック体を書くことができる。短い一文の文章をゆっくり読めるようになる。

## 幼稚園や学校でできる取り組み-合理的配慮って何？-

プロジェクトでは教員研修所と教育研究所と共同で教員研修の改善に取り組んでおり、教員の皆さんにオンラインで学んでいただけるよう、講義動画を作成しています。今日はその講義動画の中から、「合理的配慮」の概念について紹介します。

### 合理的配慮

国連の「障害者の権利に関する条約」第24条に、「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されています。教育現場における合理的配慮は、障害のある子どもや支援を必要としている子どもの学習への障壁を取り除くことができるような学習環境、教材、追加の支援、サービスを提供することです。例えば、視覚障害児のために点字の教材を準備すること、脳性まひなどにより文字を書くことに時間がかかる場合、試験の時間を長くすることは合理的配慮になります。つまり、支援を必要としている子どもが他の子どもと同じように学習することができるように、学校側が配慮することが求められています。



他の子どもから公平ではないという声があがらないのかな？

うちの学校には予算の余裕がそんなにないな・・・

学校が過度の負担をすることは合理的配慮にはなりません。例えば、車いすの子どもを受け入れるためにエレベーターを設置できればよいですが、お金がかかるので、その子どもの教室を1階にしたり、階段の上り下りを教員が手伝うことも合理的配慮となります。

特定の子どもに合理的配慮をすることは、他の子どもにとって不公平ではないかと考える人もいます。右の図を見てください。「野球の試合を観戦して、感想を話し合う」という課題が出されたとします。試合を見ることができなければ、当然話し合いはできませんよね。しかし、背の低い子どもは石壁が邪魔で試合を見ることができません。右上の図のように、他の子どもと平等に、同じ高さの踏み台を置いても、やはり背が低いために見えません。右下のように、踏み台の数を調整して、同じ目線にしてあげるとどうでしょう。これで、全員が試合を見て、感想を話し合うことができます。



公平だけど、平等ではない



平等

出所: <https://www.teensmoon.com/>

## コラム-学校全体で取り組む多層的な支援システム-

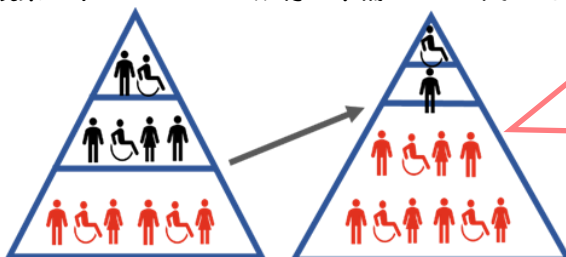
今回のコラムでは、多層的な支援システム (Multi-Tiered System of Support) を紹介します。クラスの子どもたちは、年齢は同じかもしれませんが、学習レベルや支援ニーズは様々です。多層的な支援システムは、子どもたちの学習面・社会面でのニーズを満たすため、指導・支援の度合いを3段階に分け、すべての子どもを対象とする指導・支援を1次的な取り組みとします。クラスの中で特別な配慮が必要な子どもに対しては2次的な取り組み、集中的もしくは個別の支援が必要な子どもへは3次的な取り組みを実施します。プロジェクトでは、すべての子どもを対象とする1次的な取り組みを充実させることで、2次的・3次的な取り組みの対象である子どもも主体的に学べ、活動できるようになることを目指しています。

通常学級における1次的な取り組みで重要な点は、①わかりやすく、やる気もてる授業、②子どもの多様なニーズに応じた目標設定と評価、③子どもが主体的に学ぶため多様な活動を用意すること、の3点です。上で紹介した野球の図をもう一度見てみましょう。すべての子どもが試合を見られるように、壁をフェンスに変えるとうどうでしょうか。踏み台を用意しなくても、最初から試合を見ることができそうですね。黒板の書き写しが苦手な子どもに黒板の内容を書いたプリントを用意することも、工夫の一つです。授業の中のちょっとした配慮や準備によって、子どもたちは学びやすくなります。

3次的な取り組み  
【支援が必要な子ども】

2次的な取り組み  
【配慮を要する子ども】

1次的な取り組み  
【すべての子ども】



教室の環境や授業の中で1次的な取り組みを増やすことで、より多くの子どもたちが一緒に活動できるようになる!



最初から環境を整えておく

出所: <https://www.Kickboardforschools.Com/mtss/what-is-multi-tiered-system-of-support-mtss/>



モンゴル国 ウランバートル市 スフバートル区 第1ホロー Avzaga trade building 505号室



<https://www.facebook.com/JICA.START.2>



<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/029/index.html>



[jicastart2@gmail.com](mailto:jicastart2@gmail.com)



+976-80486690

+976-95937356

